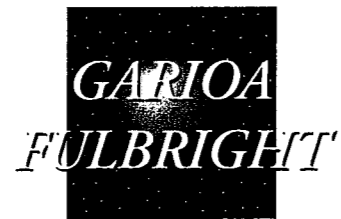


**2000年度
 東京同窓会総会・懇親会**
 ～ミレニアムに熱い交流～



ガリオア・フルブライト東京同窓会
 〒102-0084 東京都千代田区二番町11-10
 TEL: 03-3221-1841 FAX: 03-3238-0758



左から河野誠二(元フオア・フルブライト東京同窓会理事長)、橋本徹(富士銀行会長)、金谷尚志(ANICOBW総務部長)、
 渡辺宏(証券文化会顧問)、石末豊彦(国際通貨研究所理事長)

会長挨拶

金子尚志 KANEKO, Hisashi
1960年 U of California Berkley (Communications Engineering)



ご紹介を頂きました金子です。私は1960年カリフォルニア大学バークレイ校に留学させて頂きました。そこではコミュニケーションエンジニアリングを専攻させて頂き、じっくりとアメリカの文化について学ばせて頂きました。一ヶ月をかけ全米主要都市を旅行させて頂いたことが最も印象に残っております。

アメリカで思いましたのは、国際的な理解、国際親善を進めるには、教育交流が一番大事だということであり、そのことを身をもって体験致しました。その後の私の仕事の上で、留學生活は大変

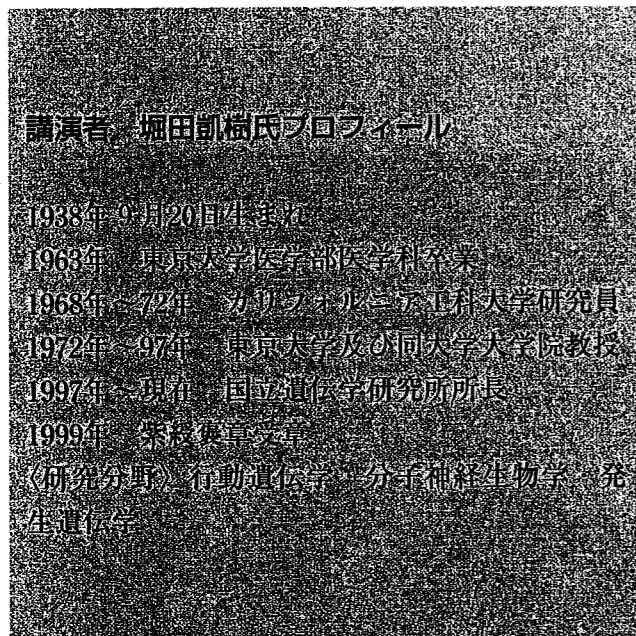


ガリオア・フルブライト東京同窓会2000年度総会及び懇親会は、4月21日(金)、東京有楽町の東京会館で開催されました。

今年の総会には93名の会員、家族が出席。また当日は、日米教育委員会関係者等7名が列席され、総員100名でした。引き続き行われた講演会、懇親会ともになかなかの盛況で、年次、留学先を越えての交流を深めた同窓の集いでした。

総会では、1999年度決算及び2000年度予算が議案としてかけられ、さらに役員の変更等が紹介されました。

総会に続く国立遺伝学研究所所長堀田凱樹氏(1968年フルブライター)の講演「細胞の運命と遺伝子」は、小中陽太郎氏(Alumni Meetings 委員長)が司会を務められましたが、予定の40分をオーバーする程の熱気に包まれ、盛会でした。



講演者 堀田凱樹氏プロフィール

1938年9月20日生まれ

1963年 東京大学医学部医学科卒業

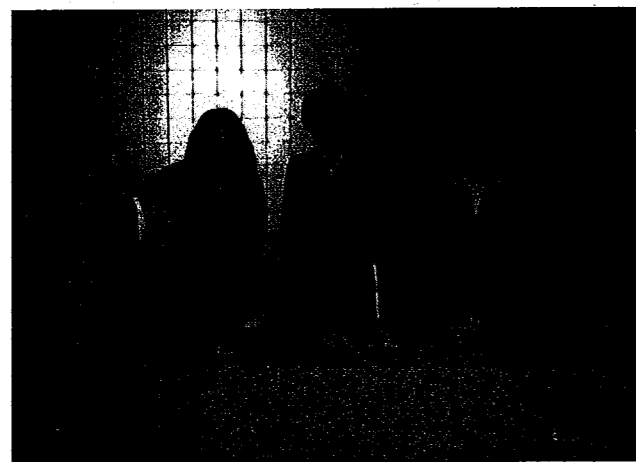
1968年～72年 カリフォルニア工科大学研究員

1972年～97年 東京大学及び同大学大学院教授

1997年～現在 国立遺伝学研究所所長

1999年 栄誉賞受賞

《研究分野》行動遺伝学、分子神経生物学、発生遺伝学



総会受付は私達にまかせて!!

貴重な体験となりました。皆様方もおそらく同じようにお考えになっておられることと思います。そういうこともありまして、何かお返しをしなければと思っていましたところ、私の前任者の橋本富士銀行会長から、そろそろ会長役をバトンタッチしたいと言われました。実は橋本さんの後釜では大変だと躊躇もしたのですが、まあ恩返しの一つのいい機会かもしれぬということで、お受けした次第です。

同窓会の皆様には日頃アメリカからの留学生の受け入れ、その他の諸計画、行事に際し、ボランティアとしてご支援、ご尽力を頂き、本席をお借りしまして厚く御礼申し上げます。今後とも同窓会に対し、皆様のご協力を仰ぎたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

ホスピタリティ委員会の活動報告

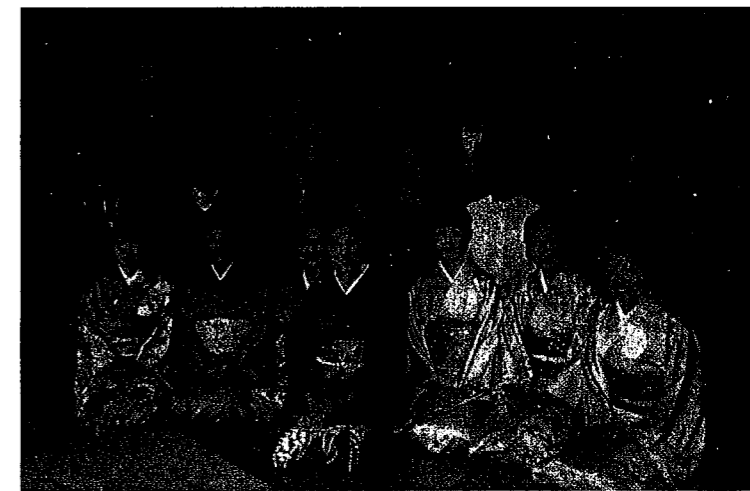
1. 宇都宮旅行

島田道子 SHIMADA, Michiko
1957 U of Minnesota American History

昨年11月23日から25日まで、例年通り宇都宮の「いっくら」国際文化交流会の御好意により、総勢8名のアメリカンフルブライターのホームステイが行われた。今回で10回目を迎え、その間同窓会側の世話役としてご奉仕して下さった葛城めぐみさんが、オーストラリアへ仕事で赴任されたので、私が後任を引き受けることになった。

「いっくら」の長門会長をはじめ会員の方々が宇都宮駅まで出迎えて下さり、3台の車に分乗して昼食会の場所へ行った。各自自己紹介などをしながら和気あいあいの中で昼食。そのあと日本舞踊の鑑賞、裏千家の茶の湯の席で抹茶をいただく。各ホストファミリーもこの場で会い、お茶の後、各家庭に分かれていった。

翌24日は集合地コンセーレへ、



日本舞踊鑑賞の後で

ホストファミリーに送られてフルブライターが集まり、観光バスで日光へ。中禅寺湖を通過して奥日光へ行き、竜頭の滝に沿って歩き、華厳の滝の近くまで行って写真などを撮る。

その後日光博物館を見学し、「日光の四季」を写したパノラマ映画を鑑賞、居ながらにして雄大な日光の自然の移り変わりをみる事ができとてもよかった。

午後2時すぎ東照宮へつき、2時間近く歩きまわった。雨が降り出したため観光客も少なく陽明門を通り、拝殿に上がり、奥の家康の墓まで207段の階段を登ったり、鳴き滝を聞いたりした。5時すぎコンセーレへ戻り、ホストファミリーの出迎えを受け、それぞれの家へ向かった。

最後の25日はコンセーレへ集合し、バスで益子へ行った。日下田藍染工房を見学し、日下田氏が



日光東照宮の陽明門を背景に



奥日光の「竜頭の滝」のそばで

藍染めの型や方法、作品などを説明して下さった。フルブライターも大変興味を示し、熱心に質問するので、日下田氏も喜んでおられた。両親へのクリスマスプレゼントにすると云って作品を購入する人もいた。その後、浜田庄司の屋敷が記念館になっている益子参考館を訪れた。生前の茅葺き住居、仕事場だった工房、登り窯などそのまま公開されており、彼自身の作品の他、友人のバーナード・リーチや河井寛次郎の作品、また沖縄や中国各時代のコレクションなどが展示されていた。

昼食後は、益子焼窯元共販センターへ行き各自おもしろい時間をすごした。クリスマスも間近なため、とっくりや花瓶、湯呑みなど沢山クリスマスショッピングをする人もいて、時間がアツという間に過ぎてしまい、集合時間の2時になっても現れない人がいて、ハラハラする場面もあった。

2時50分に宇都宮駅に到着し、「いっくら」の方々に別れを告げ、3時11分の快速ラビットで上野へ4時11分に到着した。その夜の六本木プリンスホテルでの同窓会主催のレセプションに間に合わせるためのギリギリの時間だった。

後半少し時間的な余裕がなかったが、全般的には、とても楽しい素晴らしい旅行だった。これも「いっくら」の方々及びホストファミリーの献身的な努力があってはじめて可能なことであり、この点はフルブライターも大変感謝していた。

参加予定のフルブライターが急に米国へ一時帰国して、連絡の行き違いがあったり、一人が間違っただけで一日早く宇都宮へ着いたりとしたハプニングがあった



シェパード日米教育委員会事務局長のご挨拶

が、「いっくら」の方々は、わざわざ駅まで迎えに行き、一日早く着いた学生を泊めて下さりと心から暖かくもてなして受け入れてくれた。私が若い頃、ミネソタで暖かくもてなして下さったアメリカの方々をこの年になっても決して忘れないように、小さなことでも、人の心に残った印象は一生その人の観方に影響するものだと思う。アメリカンフルブライターの方々がこの旅行をととても喜んでくれて、私も嬉しかった。

2.出迎えサービスこの10年

1989年に始めた、成田空港でのアメリカングランティーの「出迎えサービス」は、東京フルブライト同窓生とご家族のご協力で、2000年7月31日現在で延べ126名のアメリカングランティーの出迎えました。家族同伴の方も多いため実際はもっと多くなります。

初めのころは、税関検査からの出口やバス乗り場が狭く、初めて日本に来るアメリカングランティーに、これが経済大国の玄関口かと思われなかと恥ずかしい思いをしました。今は、信じて貰えない話ですが、目指すバス乗り場への道路幅が、反対方向からくるスーツケースを持った乗客をやり過ごすのがやっとなというほど狭く、バス乗り場も数が少なくバスが数分間隔で出発するので、乗客の行列はあってもなくても同じでした。

しかし、この10年の間に広々としたホテルのロビー並のターミナルができ、税関検査からの出口も広くなり、バス乗り場も格段に広くなり、以前に比べれば気持ちよく出迎えられるようになりました。

それと、以前は携帯電話というような便利なも

のがなく、ホテルへの直行バスが少なく、空港でリムジンバスに乗せ、東京シティエアーターミナルで待っている次のボランティアの方に、「今、空港から確かに出発しました」と伝えるのに、家族がいる誰かの家（たとえば私の家）をキーステーションにして連絡を取り合ったものです。（委員長 太田隆次）

3.アメリカンニューグランティー一歓迎会

恒例の、新しく来られたアメリカングランティーの歓迎会が、グランティーと家族、冠企業、日米教育委員会、同窓会員など約90人が集まって、1999年11月25日に六本木プリンスホテルで開かれました。

橋本委員長から歓迎の挨拶の後、シェパード日米教育委員会事務局長がグランティーを代表して謝辞があり、続いて各グランティーから日本語あるいは英語で自己紹介をして頂きました。

今回は趣向を変えて、自己紹介を終わったグランティーはそのまま壇上に残り、シェパード事務局長を中心にして全員集合してもらいました。（写真）

アメリカングランティーだけでなく、日本人同窓会員の久しぶりの再会もあって、あちらこちらで英語や日本語での談笑の輪ができました。（委員長 太田隆次）



アメリカングランティーの自己紹介

4.最高裁・国会見学

アメリカンニューグランティーの最高裁及び国会見学が本年は5月12日（金）に行われ、参加者はグランティー、その配偶者、JUSEC関係職員、同窓会事務局職員等、総勢17名でした。

午後1時30分から3時30分まで最高裁見学、午後3時45分から5時過ぎまで国会見学でした。半日の間に最高裁と国会の見学を組むことは、無理を承知の上だったのですが遠隔地からの参加者の要望もあるので例年の事ながら止むをえず踏襲してきました。

最高裁における行事は、千種秀夫最高裁判所判事に表敬訪問、英語による我国裁判制度説明・質疑応答、大法廷・小法廷・特別図書館の見学等でした。

通訳なしの英語による質疑応答を担当されたのは、最高裁事務総局広報課付の東京地裁判事の方でした。

例年のことながらグランティー達の関心は、裁判官特に最高裁裁判官の資格、任命方法、裁判の独立等に集中したように思われます。

非公開部分の見学もできたのでグランティー達は満足げでした。最高裁には正面玄関から入ったのですが時間節約のため最短距離をとということで、一般職員の通用門である西門から退出し、約10分の徒歩で国会に予定通り午後3時45分頃到着しました。

例年は津島雄二衆議院議員の英語によるスピー

チがありましたが本年は選挙の関係で同議員不在のため専ら議事堂内見学に集中しました。

議事堂天井のステンドグラスや室内電話装置等が英米からの輸入品であることにグランティー達は興味を示していました。

津島議員不在とはいえ、同議員の紹介があるので優遇を受けグランティー達は、ここでも満足げでした。

（ホスピタリティ担当副会長 高澤廣茂）

2000年度総会での各種報告

2000年度役員

- 会長：金子尚志
- 副会長：南原晃（会長代行）佐藤ギン子 有馬胡人 小西輝明 松原巨子 高澤廣茂 白鳥正喜
- Alumni Meetings委員長：小中陽太郎 副委員長：日比谷潤子
- Hospitality委員長：太田隆次 副委員長：島田道子／担当副会長：高澤廣茂
- Publicity委員長：加藤幸男
- Administration事務局長：太田隆次
- 監査役：原田敬美

1999年度募金データ

企業名	金額(単位:千円)
A50	10,000
富士銀行	1,000
JEF	9,455
三菱グループ	5,000
トヨタ自動車	5,000
YKK	10,000
東京チャリティゴルフ	7,380
個人寄付金	1,352
合計	52,187

1999年度会務報告

- 99.03 全国同窓会会員名簿を全会員に発送。
- 99.04.15 1999年度総会及び懇親会。講演者 開原成充氏。出席者：会員68名、その他17名、合計85名。
- 99.05.18 アメリカ人フルブライターの為に最高裁判所及び国会の見学会。参加者9名。
- 99.08.18 東京同窓会役員会。
- 99.09 アメリカ人フルブライターを成田空港に迎。
- 99.10.25 第24回日米交流チャリティゴルフ大会。参加者135名。募金額500万円余り。
- 99.10 Newsletter No.12を発行。
- 99.11.23~25 アメリカ人フルブライターの為に宇都宮ツアー（日光東照宮、益子焼など）2泊3日。参加者10名。
- 99.11.25 アメリカ人フルブライターの歓迎会。出席者：会員45名、グランティエ22名、その他23名、合計90名。
- 00.01.11 名簿刊行記念募金額 合計966万円。
- 00.02.07 東京同窓会役員会

1999年度決算 金額(単位:円)

収入の部		支出の部	
会費	5,000,000	旅費交通費	111,000
寄付金	5,000,000	通信費	1,043,000
受取利息	45,000	印刷製本費	194,000
募金手数料	1,140,052	交際費	0
PC賃貸料	240,000	什器備品	428,000
雑収入	0	修繕費	0
		消耗品費	8,000
		地代家賃	288,685
		会合費	-81,033
		倉庫料	144,000
		事務用品費	222,000
		給料手当	3,600,000
		奨学生費	291,913
		支払手数料	18,000
		図書購入費	18,000
		会議費	153,000
		雑費	86,000
		予備費	0
当期収入合計(A)	11,425,052	当期支出合計(C)	6,524,565
前期繰越	13,071,327	当期収支差額(A)-(C)	4,900,487
収入合計(B)	24,496,379	次期繰越(B)-(C)	17,971,814

2000年度決算 金額(単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	17,971,814	旅費交通費	160,000
会費	5,000,000	通信費	1,400,000
寄付金	50,000	印刷製本費	200,000
受取利息	50,000	交際費	0
募金手数料	924,000	什器備品	500,000
PC賃貸料	240,000	修繕費	20,000
雑収入	0	消耗品費	10,000
		地代家賃	288,685
		会合費	-80,000
		倉庫料	144,000
		事務用品費	220,000
		給料手当	3,600,000
		奨学生費	292,000
		支払手数料	15,000
		図書購入費	15,000
		会議費	150,000
		雑費	120,000
		予備費	500,000
合計	24,325,814	合計	7,554,685
		次期繰越	16,681,129

同窓会名簿刊行記念募金データ (00/01/11現在)

〈名簿発送者総数〉	国内	4948名
	海外	179名
	合計	5127名
〈寄付者総数〉		2793名
〈寄付金総額〉		¥9,660,100
〈1人あたり寄付金額平均〉		¥3,460

〈地区別件数と金額〉

地区	名簿発送数	寄付者数	募金額
北海道	79	50 63%	165,000
東北	135	77 57%	287,500
北陸	49	35 71%	120,000
東京	3,101	1,717 55%	5,804,500
中部	262	161 61%	628,000
京滋	272	157 58%	566,100
大阪	471	249 53%	871,000
中国	144	83 58%	277,000
四国	64	36 56%	105,000
九州	185	102 55%	338,000
沖縄	186	98 53%	372,500

国内合計	4,948	2,765	56%	9,534,600
国外	179	28	16%	125,500
総数	5,127	2,793	54%	9,660,100

〈寄付者内訳〉

2500円未満	10名	
2500円以上5000円未満	2143名	
5000円以上10000円未満	470名	
10000円以上20000円未満	158名	
片山嘉男	小川一郎	早川俊一郎
中嶋康輔	佐藤清夫	藤井澄三
大川美雄	関口 忠	吉住孝之
木谷 忠	野末源一	栗原敦雄
佐伯彰一	今井六雄	島袋孝雄
澤村 卓	尾前照雄	田中 孝
中野睦治	川又良也	田中千恵
中山和世	小林栄智	並川啓志
堀 菊子	清水 護	笛木和雄
安武正隆	津屋 旭	三浦 健
石坂一義	富田岩芳	池辺 洋
井上和子	浜崎隼彦	太田洋三
岡本庄三郎	三好正也	香川靖雄
木下豪児	山下竹二	木村 汎
倉智佐一	國井大蔵	佐藤良輔
澤田昭夫	中村恒善	中西浩一郎

中村泰子	藤崎博也	仲本貞夫
中村龍一	吉田文武	ホーヌマルク紀子
本田正一	伊勢亀富士朗	細田淳子
本村 潔	公文美恵子	芝原邦爾
河野宗夫	小泉直一	荘口博雄
小寺敏一	難波達治	根谷崎敏彦
諏訪部道臣	初音嘉一郎	松下照雄
豊田利幸	平井英夫	安里文雄
名嘉座元助	松木康夫	石津和彦
宮城文三	室伏靖子	岡本珠代
宮良用英	上野田鶴子	小泉正明
森田貞雄	上原方成	コモグチ善美
伊丹レイ子	川本茂雄	坂本良男
小西輝明	楠川絢一	大津 誠
田丸謙二	幸治恵子	柏木繁男
市川芳彦	塩田義朗	菱田浩子
市嶋 勲	隅出昂伸	増田義人
小田富士夫	中野照海	村上英二
榊原胖夫	西瀧眞澄	山中光義
伊藤ノブ夫	藤田榮一	森野捷輔
香西理子	荒川民雄	嶋田征子
小関弥平	小松原久夫	橋本秀一
津島雄二	佐伯真光	浜田文雅
前田幸雄	佐藤 喬	渡田昌昭
マックナイト道子	辻村江太郎	米盛徳市
村片みどり	中村 喬	中元紘一郎
後 正武	美濃 正	高井次郎
龍岡資晃	広瀬弘忠	川村 保
國分康孝	森田 朗	丸山富久治
黒坂佳央	吉村博実	大竹考司
白井孝昌	松本礼二	山田 亨
グルットレ秀子	伴 金美	石川 滋
早見 弘	横山 良	原ひろ子
牧野信夫	三上紀史	吉村徳重
飯田 寛	中島平三	野村益寛
早川 操	辻内鏡人	各務謙司
菊池顕次	武本昌三	

20000円以上30000円未満	7名	
小穴進也	佐藤武雄	上田健夫
倉林民男	川口 藍	上田俊男
印南一路		

30000円	5名	
長澤光一	須田 潤	金子主税
あきばじゅんいち	山田高敬	

※10,000円以上御寄付を下さった方には、念のため受領確認書をお送りしました。

国立遺伝学研究所 所長
堀田 凱樹氏
講演趣旨

細胞の運命と遺伝子

遺伝学研究所の堀田と申します。きょうはご招待いただきまして大変うれしく思っています。

ご紹介いただきましたように、1968年～1972年、アメリカに留学し、カルテック、ロサンゼルス郊外にありますパサデナというところにおりまして、そこで初めてショウジョウバエの研究を始めたということで、今大変なつかしく思い出しています。もう何と30年以上前になってしまったということで、感無量の感じがいたします。

実は今遺伝子の色々なことが今後、経済的な問題とも非常に深くかかわってくるということで、大変興味をお持ちの方も多いたと思いますが、そういうこと背景にある遺伝子を使った研究というのはどんなものなのかということです。遺伝学研究の話をちょっとして、それでむしろ皆さんとのディスカッションの中で、全体的な観点からのご質問があれば私に可能な限りは討論したいと思いますので、よろしく願います。

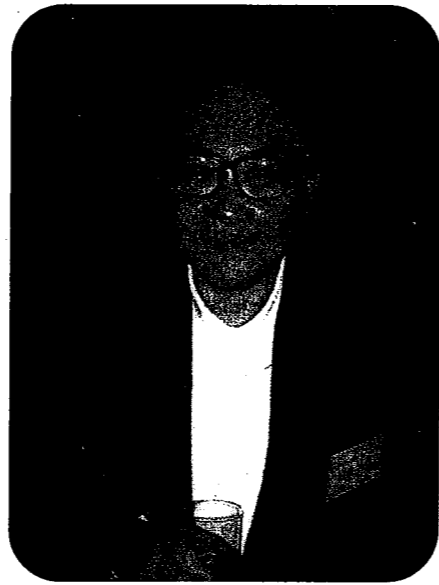
物理学と遺伝学は非常によく似ているということです。物理学というのは自然科学の基礎です。どんな自然科学でも物理学と関連ないということはない。物理は基本法則です。同じように生命科学の基礎が遺伝学です。遺伝学と関係ない現象というのはないんです。逆に言えば、遺伝学を使って研究できないものはない。これは遺伝学研究所の宣伝になりますが、遺伝学研究所では何でもできます。理論もあれば実験もあります。分子の話もあれば個体の話もあります。発生の話もあれば進化の話もあります。長い進化の研究だって遺伝子でやるわけですから、そういう意味では遺伝学というのは生命科学の基本です。両方とも割合論理的で数理的であるし、決定論と非決定論というものが微妙に組み合わさっているというのが特徴です。

物理学でもニュートン力学というのは決定論的であるけれど、量子力学とかそういうのが非決定的な側面をカバーしているわけです。遺伝学も同

じです。遺伝子そのものの1対3とかいうのは決定論的ですね。遺伝子がタンパクをつくっている、これは決定論。しかし、だからといって完全に同じものができるわけではないという非決定性があるわけで、その非決定性と決定性とをどう解くかというのが我々の腕の見せどころなんです。

遺伝学の特徴というのは、種の壁を超えられるということです。これは逆説的ですが、遺伝学というのは本来種の壁を超えないんです。もともとの遺伝学は種の中でしか掛け合わせができませんから種の壁を超えられないはずなのに、現代の遺伝学は種の壁を超える。なぜ超えられたかということ、遺伝子の基礎になってDNAはすべてに共通だからです。バクテリアのDNAと我々のDNAは同じケミカル物質です。だから我々の遺伝子をバクテリアの中に入れることは簡単にできる。我々の遺伝子をショウジョウバエに入れることも簡単にできます。ショウジョウバエの遺伝子は人間に入れることもやろうと思えばできる、ただやらないということです。そういうふうな種の壁を超えて研究できるということが非常に大切です。

そうやって見たときに、生化学的な過程というのは非常に普遍的であるということが今までにわかっているわけです。それはつまり遺伝子が普遍的だからです。だから遺伝子の目で見れば、すべてのものを同じ言葉で語れるということが重要です。ですから例えば、昔だったらクジラの研究者とチョウチョウの研究者が



堀田 凱樹氏

話し合いをするということはまずなかったでしょう。でも今では、クジラの足をつくる遺伝子とチョウチョウの羽の模様をつくる遺伝子とはほとんど同じものであったということがわかっています。つまり、種を超えて同じようなメカニズムがつけられているわけです。

教育に遺伝子が非常に重要だというのはそういうことで、遺伝子に逆らって教育しようと思ってもこれは無理なんです。私に100メートルを速く走れというのと同じです。そういう無理なことをやるというはいけない。逆に言えば、その人がどちらの方向に向いているかを見つけさせるのが教育で、人によってさまざまな遺伝子の組み合わせでいろいろな方向に向いているわけですから、それに合った教育をするということが大事です。あるいは病気の問題でも、病気のかかりやすさとかいろいろなことは一人一人違うわけですから、それに合った医療をしなくてははいけない。そういうことなのですが、これの理解がなかなかないというのが現状で、ぜひご理解いただきたいと思えます。

ですから遺伝学というのは決して、物事が決まってしまうって、私の頭が悪いのはもうだめでしょうかというような話ではない。いくら才能があっても遺伝子があっても、もちろん努力しなければ開花しないわけです。アフリカで難民の中にも多分アインシュタインみたいな人がいるかもしれない。でもその人は絶対開花できないわけです。



それは栄養状態が良くなければ開花しないし、やはり物理学を教えなければアインシュタインにはなれないということです。ですから教育や医療というものと遺伝学とが実は非常に近いというか、

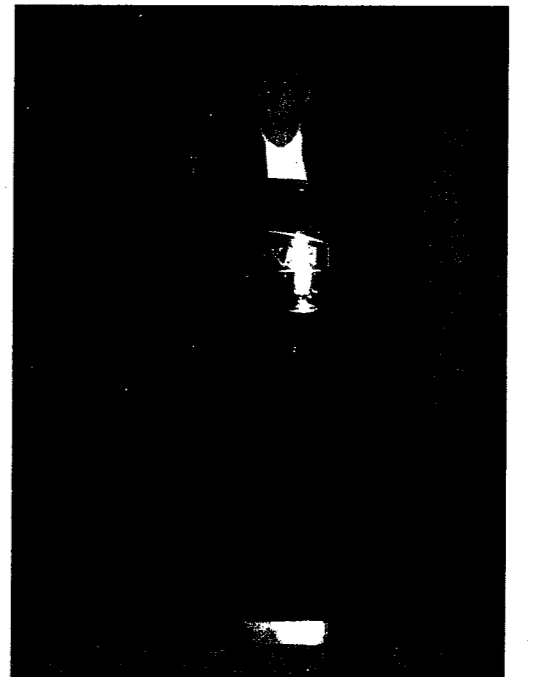
最も重要な問題であるということぜひご理解いただきたいと思えます。遺伝子というのは決して遺伝病のためにあるものではありません。遺伝病というのは遺伝子がうまくいかなかったときに起こる現象ですから、これを真っ当に取り上げて研究することが必要です。何か遺伝というと単に暗いイメージというふうに取りられるのは全くおかしいので、これはいいことをするためにあるものですから、そのメカニズムを研究しようというのが我々の立場で

す。どうも長いことありがとうございました。

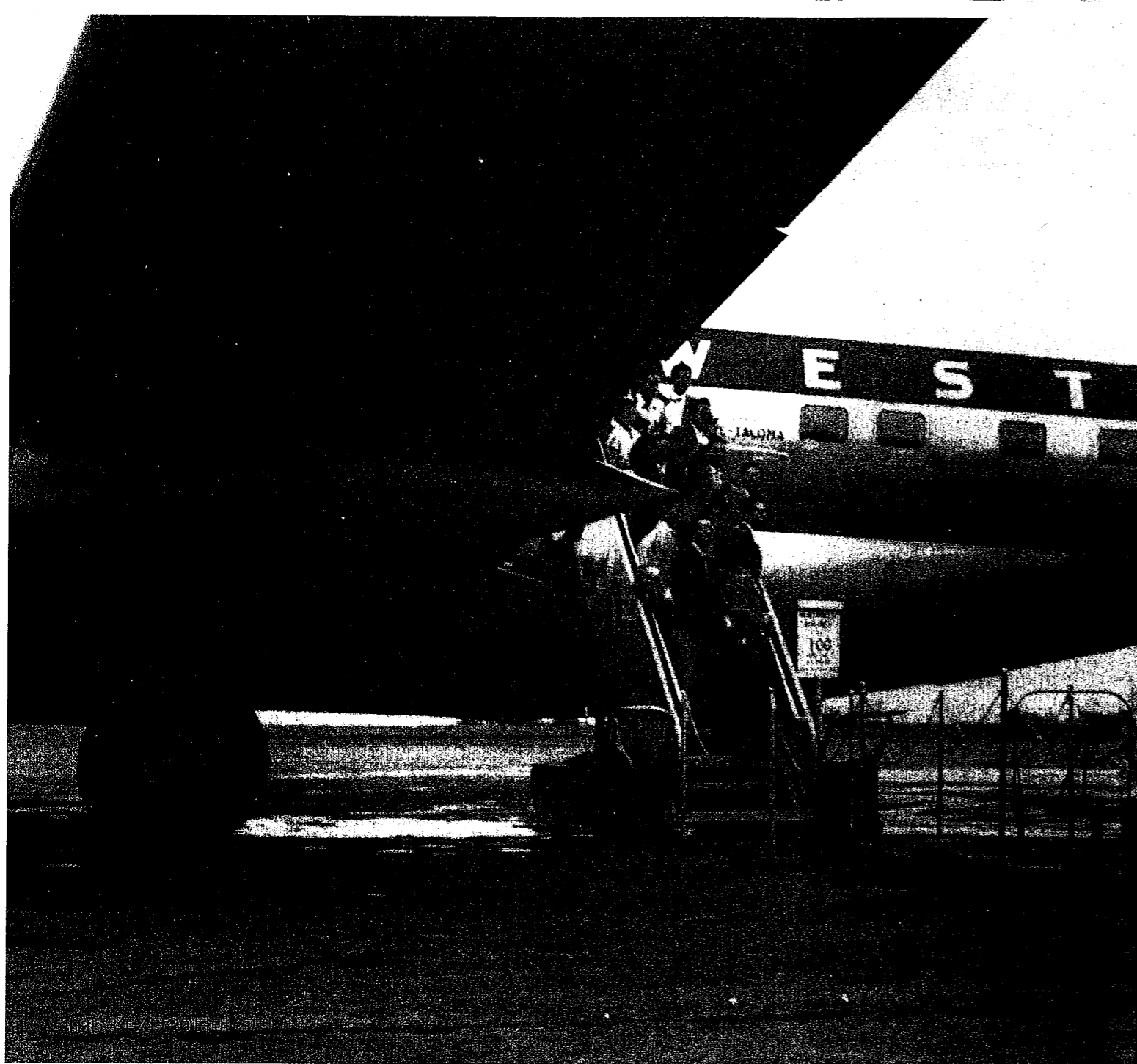
司会 ありがとうございます。実におもしろくてまだまだ聞きたいのですが、先生うまくまとめてくださって、もちろん生物学的な知識を超えて人間教育に渡るお話だったと思います。たくさんの質問があると思うのですが、カリフォルニア同士で特に会長に私は一問、お与えいたしますから、何でもいいですからご質問を。

会長 ロサンゼルスとバイエリアとちょっと離れていたんですが、大変もう感動的な話を伺って、いろいろ私も興味を持って時々聞いているんですが、やはりこの全部で36億年ですか、36億年のうちの最初の結局、脊椎と無脊椎と分岐したそれまでは一体、あれは脊椎と無脊椎だけの話であって、実際にはいろいろな生物がその中で生きて分岐をしてくれているわけでしょうか。

堀田 もちろん、そうです。ただ、今残っているもの……。死んだもの、絶滅したものはいっぱいあるわけですね。皆さん、絶滅種の保存とか何とか言いますが、今保存しようなんていうのは小さい話で、過去にはものすごいいろいろなことを試したのではないのでしょうか。その中で生き残ってきたものだけを見て系統樹をかくと、大きく分けて無脊椎と脊椎になって、そのの頂点にハエとヒトがいるわけです。ハエが頂点だというのはこれは本当なんです。



講演中の堀田凱樹氏



留学時代の筆者、恩師の
Prof. C. C. Fries先生と。

感じた。

Final placementのMichigan大 (Ann Arbor) では、私を入れて四人の日本のfull expenseのFulbrighters全員が言語学・英語学専攻で、'54年6月には三人がM.A.を取得 summer sessionsにも参加を許された私は幸運にも学位授与のcommencementの式にも出席できたが、帰国はsummer sessionsの為に9月上旬となった。(Michigan大での勉強は、恩師Prof. C. C. Fries先生の口癖の様にstruggleの一語に尽きる。)

■随想■ 昭和28年～29年フルブライト留学の思い出

上田 稔 UEDA, Minoru
1953. U of Michigan Linguistics Theory

「光陰矢の如し」とか、“Time flies. Die Zeit vergeht wie im Fluge”などの東西の諺を引くまでもなく、full expenseのFulbrighterとしてUniversity of Michigan, Ann Arborに留学したのはすでに殆ど半世紀前のことになった。この米国留学直後に早稲田大学の助手を経て専任教員になったが、British Council留学生 (1963-64) としてOxford大への留学とそれに続く米国Texas大 (Austin) でのPh. D. 取得の為の研究 (1964-66)、

更に早大の在外研究員として、ドイツのBonn大学 (Rheinische Friedrich-Willhelms Universität) でのゲルマン語一般の研究 (1974-75) など、1999年3月定年退職して名誉教授になるまで、短い海外調査を別にすれば、Fulbright留学以降の海外研究は更に三回あったことになる。しかし、impactの大きさと、その後の長い影響力を考えると、最初の米国留学に優るものはなかったと思う。戦時中広範囲な本土爆撃を可能にした米空軍長距離爆撃機B-29の改造旅客機Boeing社のStratocruiserに、'53年7月20日の朝、総勢十数名の我々は羽田空港の

tarmacを歩いてタラップを登り、機上の人となった。日本軍が玉砕したAttu島の東方約50kmのShemya島でrefuelingして目的地Seattle-Tacoma空港に到着するのに18時間位かかった。同機下部の爆弾投下用の場所がloungeに改造されて、機上から真下が眺められるという旅客機であった。感慨無量である。

さて、Kansas大 (Lawrence) のorientationでは、始め私はDr.の称号等をもった人などが数名いた一番上のクラス、class 5に入れられたが、担任のDr. Field先生に頼んで、若いドイツ人やインド人の学生のいるすぐ下のclass 4に移り勉強した。担任はドイツ系美人のMiss Beltzさん。ここでも、日本人は私一人だったが、若いドイツ人達との交流から、英語のみでは西洋の学問は出来ないと痛



アイゼンハウアーの記念館の前で (オリエンテーショングループ) 前列中央が筆者

FMFプログラムの支援

●ここ数年来日本政府によってアメリカの小・中・高校の先生方を日本に招待して日本の先生方との交流をはかる、フルブライト・メモリアル・フェンド事業が行われています。日本政府からこの事業を委託されました日米教育委員会からは、フルブライト同窓会員に對しまして、度々の協力要請がありました。これに對しまして、数多くの同窓会会員の方々が積極的にご協力下さいました。

●FMFからの協力要請は、“1. 参加者到着日の夕食の案内”、“2. 20名グループとなつての各都市訪問行事のうち、訪問地での歓迎会、市庁舎訪問、小・中・高校及び大学訪問など4～5日の行程の各日にFMFの代表者の代りとなつて行動し訪問先への挨拶”などをするの2点です。

●今までこれらの支援活動は、数年前に東京同窓会で会員に對して行ったアンケートの回答を基に、協力して下さいそうな方々100～200名に毎回お願いして参りました。今まで東京同窓会の事務局からFMF活動への協力をお願いをお受取りになられたことの無い方で、都合の合う時には協力してもよいというご意向のございます方は、Faxでご一報いただければ幸いです。

●同期の人、専門分野の人 同窓会や専門分野を企画されるグループの方には、できるかぎり資料リスト・ラベル等をお送り致します。ご遠慮なくご連絡下さい。

●同窓会事務局

同窓会事務局は地下鉄有楽町線の麴町駅のごく近くで、地下鉄半蔵門線の半蔵門駅からも5分位、JR四谷駅及び市ヶ谷駅からそれぞれ10分位の所にあります。お気軽にお立ち寄り下さい。

●フルブライト同窓会・財団・委員会の区別

フルブライト同窓生の多くの人にとって、下記の三つの組織の区別が分かり難いようですので改めてご説明します。

〈日米教育委員会〉

日米両国政府によって作られている組織で、フルブライト奨学生の選考と奨学金の支給をします。私達同窓生も皆お世話になった組織です。

現在の住所は東京の赤坂見附の近くにあります。

住所：東京都千代田区永田町2-14-2

Tel: (03) 3580-3240

〈フルブライト同窓会〉

(ガリオア・フルブライト同窓会)

かつてフルブライト(又は、ガリオア)奨学生だった人達を会員とするいわゆる同窓会で、全国11地区にそれぞれ地区同窓会が組織されています。全国的に関係のある問題、行事に對しては、地区同窓会の代表で組織されるガリオア・フルブライト同窓会全国理事会があつて、東京同窓会が会長・事務局を兼ねています。

ガリオア・フルブライト同窓生の総数は約六千人ですが、既に亡くなられた方や海外に居られる方を除いた実数は約五千人で、そのうちの約三千人が東京同窓会に所属しています。

東京同窓会の事務局は東京・麴町の日本テレビの近くにあります。

住所：東京都千代田区二番町11-10

Tel: (03) 3221-1841

〈フルブライト財団〉

(日米教育交流振興財団)

ご承知の通りガリオア・フルブライト同窓会では主としてアメリカからの奨学生の人数を増やすために、同窓生・企業から募金をしています。寄付者に税法上の便益が得られるように同窓会によって作られたのが、フルブライト財団(日米教育交流振興財団)です。

財団の事務局は東京同窓会と一緒にあります。

事務局便り

●50周年記念事業

2002年に予定されます日米フルブライト・プログラム50周年記念事業発起人会のメンバー並びに実行委員のメンバーは次の方々ですのでご紹介いたします。

『フルブライト・プログラム50周年記念事業』 発起人会(Advisory Council)リスト

◎発起人会会長 賀来景英(大和総研副理事長)

Advisory Council Co-Chair

川島 裕 外務省事務次官

(Honorary Co-Chairman, JUSEC)

トーマス・フォーリー駐日米国大使

(Honorary Co-Chairman, JUSEC)

◎発起人会 Advisory Council Member

明石 康(前国連事務次長)

有馬 朗人(前文部大臣)

マイケル・アマコスト(元駐日米国大使)

グレン・フクシマ

(アーサー D.リトル(ジャパン)(株)社長)

行天 豊雄(国際通貨研究所理事長)

橋本 徹(富士銀行会長)

猪瀬 博(学術情報センター所長)

金子 尚志(NEC取締役相談役)

河村 欣二

(元フォーリン・プレスセンター理事長)

リック・マーティン

(ボーイング・ジャパン社長)

小西 輝明(元J.P.モルガン証券会社社長)

小笠原 敏晶(ジャパンタイムズ会長)

緒方 四十郎(元日本開発銀行副総裁)

大河原 良雄(元駐米大使)

大野 功統(衆議院議員)

佐藤 ギン子(証券取引等監視委員会委員長)

利根川 進(MIT教授)

津島 雄二(元厚生大臣)

渡邊 宏(元三菱化学顧問)

カロライン・又野・ヤン

(Vice Chair, J. W. Fulbright BFS)

フルブライト50周年記念事業実行委員

北海道同窓会 [Hokkaido]

小田島敏朗 北海道新聞社 次長

東海明宏 北海道大学 助教授

東北同窓会 [Tohoku]

西山廣宣 東北福祉大学 助教授

佐々木公明 東北大学 教授

岩瀨康民 (財)仙台国際交流協会 課長/係長

東京同窓会 [Tokyo]

賀来景英 (株)大和総研 副理事長

浜田竜之介 江戸川大学 教授

松原亘子 日本障害者雇用促進協会 会長

文野千年男 三井業際研究所 事務局長

船橋洋一 朝日新聞社 編集委員

江崎幸一 エクセル(有) 取締役社長

早川与志子

日本テレビ放送網(株)プロデューサー

原田敬美 港区区長

山田伸二 日本放送協会 解説委員

小川富由 建設省

相馬 勝 産経新聞社 記者

印南一路 慶應義塾大学 助教授

佐原亜子 (財)国際文化交流推進協会 専門員

内藤昭男 セイコー(株) 課長

松本 茂 フォード自動車[日本](株)

ビジネス・デベロップメント・マネージャー

北陸同窓会 [Hokuriku]

森田幸夫 金澤学院大学 教授

有田明子 フォト・ジャーナリスト

中部同窓会 [Chubu]

木下宗七 椋山女学園大学 教授

篠田啓一 日本福祉大学 教授

上田慶一 三重県教育文化会館 相談役

京滋同窓会 [Kyoto/Shiga]

岩佐義朗 地球工学研究会／(財)大阪地域計画
研究所 会長
榊原胖夫 浄土宗紫雲山無上院大雄寺 住職
川又良也 大阪国際大学 教授

大阪地区同窓会 [Osaka]

吉川素三 大阪ガス(株) 専務取締役
神保一郎 関西大学名誉教授
牧野信夫
ハリマ化成(株) 取締役経営企画部長
三浦秀之 流通科学大学 非常勤講師
後藤田輝雄 相愛大学 教授

中国地区同窓会 [Chugoku]

木村榮一 広島大学 教授
隅出昂伸 中国地方経済連合会 参与

四国同窓会 [Shikoku]

芝田征二 香川医科大学 教授
戸澤健次 愛媛大学 教授

九州同窓会 [Kyusyu]

先川祐次 精華女子短期大学 教授
池田暁彦 フリーランス・ジャーナリスト
林 弘子 福岡大学 教授

沖縄同窓会 [Okinawa]

比嘉幹郎
ブセナリゾート(株) 代表取締役社長
川満 敏 川満・アインゼル法律事務所 弁護士
下地 守 (株)シーエス・ネットワーク沖縄
代表取締役社長

ニューヨーク同窓会 [New York]

林啓一郎 Keisol Ltd., Corp President
岡本紀子 コーネル大学 教授
レーバート L. グリンバーク Lawyer

在日米国人同窓会 [American in Japan]

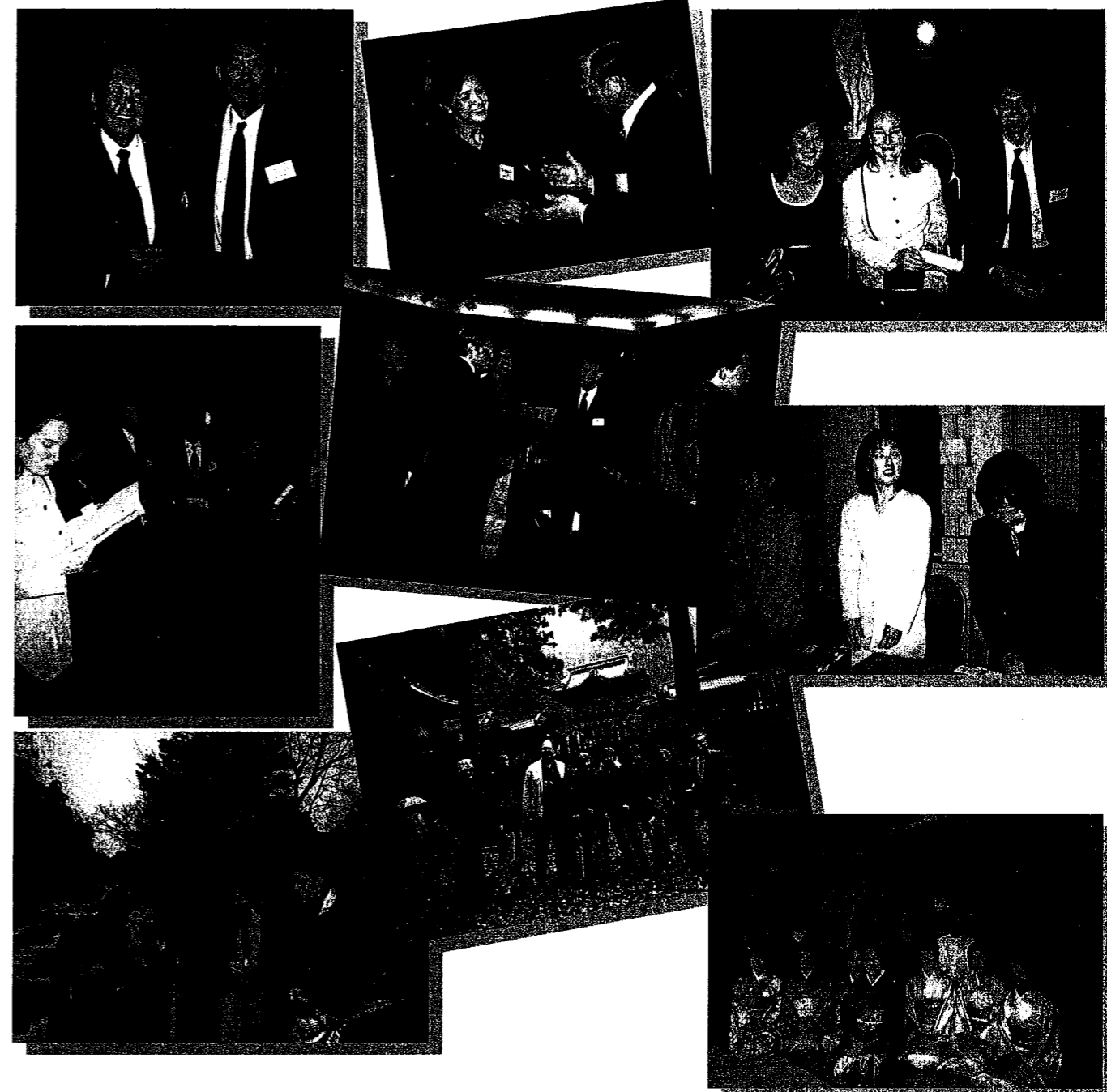
マイケル・バーガー インターコム 社長
ユージン H. リー
シーメンス旭メディテック(株) 代表取締役社長
ジュディス A. ハード Asia Sound Director
ジェニファー S. ロジャース
メルリンチ日本証券(株) ゼネラルカウ
セル&ディレクター
ダン A. ローゼン 同志社大学 教授

人を受け入れる国際化

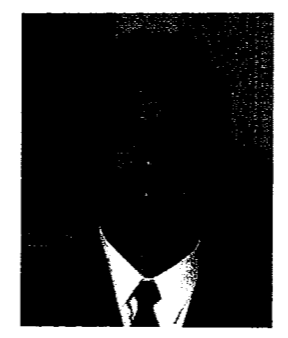
(新事務局長挨拶)

事務局長に着任いたしました大田啓次と申します。1967～69年フランスに留学してウァーグネル大学ビジネススクール、ウイリスコンソリウム大学ロースクールの学位を取り、国際取引法、人事管理、労働法を専攻、ウイリスコンソリウム大学にて修士課程を修了いたしました。

同窓会が現役の留学生などのように役に立つが第一に考えていると思っております。人を受け入れることが本当の意味の国際化であることを留学体験から学びました。伝統ある同窓会の事務局長をお引き受けしました以上、何かお力にならざる所存でございますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



編集後記



パブリシティ委員長
加藤幸男 KATO, Yukio
1990. At Large. International Education

当会監査役の原田敬美様(1974 Rice U Architectural Design)がこの6月に港区の区長になりました。オメドトウゴザイマス。さて、本ニューズレターが一人でも多くの会員の方に東京同窓会への関心を高めて頂く一助にもなればとパブリシティの委員長をお引き受けしたものの右も左もわからないありさまで、さらに8月～11月中旬までインディアナ大学へ短期の国費留学をすることになってしまい慌ただしい中での作業となりました。片手落ちのかんがあるかとも思いますが、今後にご期待下さい。
会員の皆様により身近な会報と致したく願っております。皆様方のご意見、ご要望をお寄せ下さい。

ガリオア・フルブライト東京同窓会
〒102-0084 東京都千代田区二番町11-10
TEL: 03-3221-1841 FAX: 03-3238-0758